

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	倉敷市立短期大学
設置者名	倉敷市

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
	保育学科	夜・通信			23	23	7	
	服飾美術学科	夜・通信			7	7	7	
	専攻科 保育臨床専攻	夜・通信	4		14	18	7	
	専攻科 服飾美術専攻	夜・通信			12	16	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.kurashiki-cu.ac.jp/info/wp-content/uploads/2026/06/R8jitumu.pdf/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	倉敷市立短期大学
設置者名	倉敷市

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	外部アドバイザー委員会
役割	本学の教育活動の編成、研究活動、地域貢献活動等運営に関する事項について協議及び評価し、評価結果や意見を学校運営に反映させるため、教職員の管理職の協議の場である企画運営協議会に提言する。 提言内容を同協議会において協議し、必要に応じて学内各委員会に付議した後、教授会において構成員の意見を聴いたうえ、学長が決定する。 活動履歴 https://www.kurashiki-cu.ac.jp/info/index.php/gaibu

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
児島商工会議所 会頭	2025.4.1 ～ 2027.3.31	
元ファッションタウン児島推進協議会 理事	2026.4.1 ～ 2028.3.31	
倉敷市立倉敷翔南高等学校 校長	2026.4.1 ～ 2028.3.31	
株式会社山陽新聞社 児島支局長	2025.4.1 ～ 2027.3.31	
元山陽学園大学・山陽学園短期大学 教授	2026.4.1 ～ 2028.3.31	
元くらしき作陽大学 作陽音楽短期大学 特任教授	2026.4.1 ～ 2028.3.31	倉敷市立短期大学 前学長
川崎医療福祉大学医療福祉学部 特任講師	2025.4.1 ～ 2027.3.31	
（備考）		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	倉敷市立短期大学
設置者名	倉敷市

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 本科では基礎科目と専門科目、専攻科では関連科目と専門科目によって授業科目を構成している。授業は、学修内容に合わせて、講義、演習、実験、実習、見学など複数の教授方法を用いて行っている。 授業計画書(シラバス)には、授業の主題・目標、授業の内容・進め方、実務経験を活かす内容、テキスト・教材、準備学習の具体的な方法、評価の方法・基準、履修上の注意などの項目を統一して設け、各授業担当教員は、全ての項目に記載する(実務経験を活かす内容については該当する教員のみ)。 各科目担当教員は、授業計画書(シラバス)を作成する際、前年度の内容を確認するとともに、授業評価における課題を反映し、新年度の授業計画書(シラバス)として作成している。本学では、非常勤講師を含む全教員の全授業を対象として、授業評価調査を実施し、授業に対する学生の評価を測定している。各授業の評価結果(倉敷市情報政策課による電算処理後、担当教員に返却される。)に基づいて、全教員が担当授業の改善の方針や具体的方法を記載する自己点検レポートを作成し、授業の改善を図っている。提出された授業計画書(シラバス)の原稿は、学生部で確認され、修正が必要な場合は、担当教員に修正を依頼する。 授業計画書(シラバス)は、11月末に学生部より各科目担当教員に作成の依頼がされる。授業計画書(シラバス)は、冊子として3月下旬に完成する。 授業計画書(シラバス)は、年度当初のオリエンテーションにおいて全学生に冊子として配付され、学生は授業計画書(シラバス)を確認した上で授業を選択することができる。外部への情報公開として、大学ホームページに掲載されている。	
授業計画書の公表方法	https://www.kurashiki-cu.ac.jp/info/index.php/r8syllabus/

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 成績評価方法や評価基準は「倉敷市立短期大学学則」に定めており、厳格に運用している。 この学則は、学生便覧に記載され、学生に明示している。成績評価の方法は、試験成績・レポート・作品・論文・プレゼンテーションにより総合的に評価する。また、授業計画書（シラバス）にも、科目ごとに評価の方法・基準の項目を設け、具体的な成績評価を明示している。 成績の分類と評価基準は、履修した科目の 60 点以上を合格点として、その科目の単位を与える。また、評価と得点は次のとおりである。 令和 3 年度以前入学生まで適用：A（100 点～80 点）、B（79 点～70 点）、C（69 点～60 点）、D（59 点以下）。 令和 4 年度入学生より適用：S（100 点～90 点）、A（89 点～80 点）、B（79 点～70 点）C（69 点～60 点）、D（59 点以下）。 単位認定制度に基づく単位認定の適切性については、本学では、短期大学設置基準第 7 条に基づき、学則第 16 条において次のとおり定めている。1 単位の授業科目は 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成されることを標準としており、この場合において、授業の方法に応じて 1 単位当たりの授業時間を次のとおり定めている。(1)講義は、15 時間の授業をもって 1 単位とする。(2)演習は、30 時間の授業をもって 1 単位とする。ただし、別に定めるものについては、15 時間の授業をもって 1 単位とすることができる。(3)実験、実習及び実技は、45 時間の授業をもって 1 単位とする。ただし、別に定めるものについては、30 時間の授業をもって 1 単位とすることができる。	
3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) G P Aの算出方法は次の通りである。S～Dの評価に対して、グレードポイントがそれぞれ充てられる。グレードポイントは、S（100 点～90 点）＝4 ポイント、A（89 点～80 点）＝3 ポイント、B（79 点～70 点）＝2 ポイント、C（69 点～60 点）＝1 ポイント、D（59 点以下）＝0 ポイントである。(4 ポイント×S の修得単位数＋3 ポイント×A の修得単位数＋2 ポイント×B の修得単位数＋1 ポイント×C の修得単位数) ÷総履修登録単位数で算出される。総履修登録単位数には、D 評価の修得単位数を含んでいる。 学生全員分の G P Aが算出され、学科ごとに、上位から下位までを表で確認することができる。 G P Aの算出は、前期は 9 月、後期は 2 月に行われている。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.kurashiki-cu.ac.jp/info/index.php/seiseki/

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業の認定に関する方針及び公表については、本科、専攻科のディプロマ・ポリシーを定め、ホームページで公開している。

全学学科ディプロマ・ポリシー

短期大学士の学位は、本学に二年以上在学し、学則に定める所定の授業科目を履修して、基準となる単位数を取得して本学を卒業する者に授与する。主に全学共通の基礎科目を通じて行われた教養教育と、各学科の専門性・特性に応じて編成された専門教育をともに修得し、地域社会に寄与し得る教養豊かな社会人として、豊かな人間性と創造力を備え、幅広い教養と実践的な専門性を身につけていることが必要である。

保育学科ディプロマ・ポリシー

保育学科では、大学の教育理念や学科の教育目的に基づき、次のような能力を修得し、かつ所定の単位を取得した学生に「短期大学士（教育学）」を授与する。

1. 知識・技能

保育に関する基礎的知識と技能を習得し、倫理観と使命感を備えた専門職業人として質の高い保育を実践することができる。

2. 汎用的技能応用力

保育に関わる職業生活や社会生活において、他者と交流して学び合う力、主体的に問題を発見し解決する力を備えている。

3. 創造的思考力

保育をめぐる課題を子どもや自身の成長の機会と捉え、実習、ボランティア活動等の社会経験を活かしながら、主体的に課題に取り組むことができる。

4. 態度・志向性

保育に強い関心や探究心を抱き、子ども一人一人に対する献身の心と責任感により、地域社会への支援に惜しみなく取り組む姿勢を備えている。

上記1～4に関する成果は「総合演習報告書」としてまとめられ、且つ、その内容を「こどもの森」にて発表することを通して可視化される。

服飾美術学科ディプロマ・ポリシー

服飾美術学科では、大学の教育理念や学科の教育目的に基づき、次のような能力を修得し、かつ所定の単位を取得した学生に「短期大学士（服飾美術学）」を授与する。

1. 知識・技能

ファッション、デザイン・アート、情報・地域・ビジネスに関する基礎知識を備え、多角的な視点と更なる発展・応用力を備えている。

2. 創造力・実践力

多様な手段を用い、課題を発見・分析し、創造的に課題を解決するために主体的に行動しやり抜く持続力を有している。

3. 態度・志向性

社会の一員としての協調性を持ち、多様性を認め、学びを生かして地域・社会に貢献できる力を有している。

全学専攻科ディプロマ・ポリシー

学士の学位は、専攻科に2年以上在学し、学則に定める所定の授業科目を履修して、基準となる単位数を取得して本学専攻科を修了した者が、大学評価学位授与機構の審査に合格することによって授与される。

保育臨床専攻ディプロマ・ポリシー

保育臨床専攻では、大学の教育理念や専攻科の教育目的に基づき、次のような能力を修得し、かつ所定の単位を取得した学生に「学士（教育学）」を授与する。

1. 知識・技能

保育臨床における専門的知識及び実践的スキルを修得し、子どもの最善の利益を考え、質の高い保育を実践する力と地域の子育てを支援する力を身に付けている。

2. 汎用的応用力

保育に関わる職業生活や社会生活において、他者の見解や必要な情報を収集・整理し相互に関連づけながら、自分の考えを適切に表現できる。

3. 創造的思考力

保育臨床における専門的知識及び実践的スキルを総合的に活用しながら、主体的に課題に取り組みこれを解決することができる。

4. 態度・志向性

保育における専門家として、「子どもと子育てにやさしい社会づくり」の責務を理解し、より良い地域社会の実現とその発展においてリーダーシップを発揮することができる。

上記1～4に関する成果は「修了論文報告書」としてまとめられ、且つ、その内容を「学修の成果・探求発表会」にて発表することを通して可視化される。

服飾美術専攻ディプロマ・ポリシー

服飾美術専攻は2年制の専攻科である。大学評価・学位授与機構に学位申請を行い、審査に合格することで「学士号（家政学）」を得ることができる。

1. 知識・技能

専門的知識・スキルを修得し、生活や地域・社会に活用できる能力を身に付けている。

2. 応用・発展能力

自ら課題を発見し、必要な情報を収集・選別して、それらを多角的な視点から論理的に分析し、問題を解決する創造力を身に付けている。

3. 態度・志向性

自立した社会人としての意識と向上心を持ち、地域の生活・社会の発展に積極的に貢献できる力を有している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

https://www.kurashiki-cu.ac.jp/nyusi/index.php/diploma_policy/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	倉敷市立短期大学
設置者名	倉敷市

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告(書)	

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:	対象年度:
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kurashiki-cu.ac.jp/info/index.php/ninsyou/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法 https://www.kurashiki-cu.ac.jp/info/wp-content/uploads/2025/05/hyoukakekka2024.pdf

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 保育学科
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kurashiki-cu.ac.jp/info/index.php/rinen/) (概要) 保育者としての資質、保育に関する専門的知識及び技能並びにそれらを適切かつ創造的に活用できる保育実践力を修得し、卒業後においても学び続ける意欲を持った保育者を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kurashiki-cu.ac.jp/nyusi/index.php/diploma_policy) (概要) 2 年以上在学し、75 単位以上を修得しなければならない。うち基礎科目を 10 単位以上、専門科目を 65 単位以上修得しなければならない。 本科ディプロマ・ポリシー 短期大学士の学位は、本学に二年以上在学し、学則に定める所定の授業科目を履修して、基準となる単位数を取得して本学を卒業する者に授与する。主に全学共通の基礎科目を通じて行われた教養教育と、各学科の専門性・特性に応じて編成された専門教育をともに修得し、地域社会に寄与し得る教養豊かな社会人として、豊かな人間性と創造力を備え、幅広い教養と実践的な専門性を身につけていることが必要である。 保育学科ディプロマ・ポリシー 保育学科では、大学の教育理念や学科の教育目的に基づき、次のような能力を修得し、かつ所定の単位を取得した学生に「短期大学士（教育学）」を授与する。 1. 知識・技能 保育に関する基礎的知識と技能を習得し、倫理観と使命感を備えた専門職業人として質の高い保育を実践することができる。 2. 汎用的技能応用力 保育に関わる職業生活や社会生活において、他者と交流して学び合う力、主体的に問題を発見し解決する力を備えている。 3. 創造的思考力 保育をめぐる課題を子どもや自身の成長の機会と捉え、実習、ボランティア活動等の社会経験を活かしながら、主体的に課題に取り組むことができる。 4. 態度・志向性 保育に強い関心や探究心を抱き、子ども一人一人に対する献身の心と責任感により、地域社会への支援に惜しみなく取り組む姿勢を備えている。 上記 1～4 に関する成果は「総合演習報告書」としてまとめられ、且つ、その内容を「こどもの森」にて発表することを通して可視化される。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kurashiki-cu.ac.jp/info/index.php/gakusoku/及び学生便覧) (概要) 授業科目は、基礎科目と専門科目に区分している。保育学科の教育課程の編成・実施方針は、(1) 社会人としての基礎を養うための基礎科目を設置する。 (2) 保育の専門的知識及び技能を習得するための「保育の本質・目的」、「保育の対象理解」、「保育の内容・方法」、「実習」、「総合演習」に関する講義・演習科目を設置する。 (3) 保育の実践力を養うための保育実習、教職に関する実習科目を設置する。 (4) 総まとめ科目としての保育・教職実践演習及び総合演習を設置する。

入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kurashiki-cu.ac.jp/nyusi/index.php/admission_policy/)
(概要) 1. 大学教育を通じてどのような力を発展・向上させるのか 保育学科は、「保育者としての資質、保育に関する専門的知識及び技能並びにそれらを適切かつ創造的に活用できる保育実践力を修得し、卒業後においても学び続ける意欲を持った人材を育成する」ことを目的としている。そのために、次に示す能力の5要素を有する人を求める。 2. 入学者に求める能力は何か (1) 学問としての保育を学ぶために必要な高校卒業程度の基礎学力 (2) 実践としての保育を学ぶために必要な基本的能力（行動力、表現力、判断力、思考力、省察力など） (3) 保育の専門家となるために必要な適性（感性、社会性、自立性、主体性、協調性、コミュニケーション能力、責任感など） (4) 保育をめぐる事柄に対する高い関心 (5) 人の育ちを支える保育者になりたいという熱意 3. 入学するまでに培ってきた能力をどのように評価するのか 本学の理念・教育目的と、保育学科の教育目的・教育内容の専門性・特性にふさわしい学生を選抜するために選抜試験を実施する。具体的には基本的能力や適性を中心に評価する学校推薦型選抜、基礎学力を中心に評価する一般選抜や総合型選抜である。学校推薦型選抜および総合型選抜では、基本的能力や適性と併せて保育に対する関心や保育者になりたいという熱意を評価するため、面接試験を実施する。これらの試験を通して、保育学科の教育目的に則した志願者の能力や適性等を多面的かつ公正に評価する。

学部等名 服飾美術学科
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kurashiki-cu.ac.jp/info/index.php/rinen/)
(概要) 繊維・アパレル産業を基盤にしたファッション、デザイン・アート及び情報・地域・ビジネスに関する専門的知識と技能を修得し、学内外の学びの場から課題を発見し解決するための創造力や実践力を身につけた人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kurashiki-cu.ac.jp/nyusi/index.php/diploma_policy/)
(概要) 2年以上在学し、62単位以上を修得しなければならない。うち基礎科目を10単位以上、専門科目を52単位以上修得しなければならない。 本科ディプロマ・ポリシー 短期大学士の学位は、本学に二年以上在学し、学則に定める所定の授業科目を履修して、基準となる単位数を取得して本学を卒業する者に授与する。主に全学共通の基礎科目を通じて行われた教養教育と、各学科の専門性・特性に応じて編成された専門教育をともに修得し、地域社会に寄与し得る教養豊かな社会人として、豊かな人間性と創造力を備え、幅広い教養と実践的な専門性を身につけていることが必要である。 服飾美術学科ディプロマ・ポリシー 服飾美術学科では、大学の教育理念や学科の教育目的に基づき、次のような能力を修得し、かつ所定の単位を取得した学生に「短期大学士（服飾美術学）」を授与する。 1. 知識・技能 ファッション、デザイン・アート、情報・地域・ビジネスに関する基礎知識を備え、多角的な視点と更なる発展・応用力を備えている。 2. 創造力・実践力 多様な手段を用い、課題を発見・分析し、創造的に課題を解決するために主体的に行動

しやり抜く持続力を有している。 3. 態度・志向性 社会の一員としての協調性を持ち、多様性を認め、学びを生かして地域・社会に貢献できる力を有している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.kurashiki-cu.ac.jp/info/index.php/gakusoku/及び学生便覧）
（概要） 授業科目は、基礎科目と専門科目に区分している。服飾美術学科の教育課程の編成・実施方針は、ファッション・ビジネス・造形デザインといった3つの基礎教育をもとに、地域社会における職業人の育成の実現をめざし、2年間のカリキュラムを1年次と2年次において構成している。1年次では3つの基礎教育を多角的な視点から考察する。豊富な演習・実習と講義を通じて、必要不可欠な基礎的な知識・技術を習得する。個々人の適性を伸ばすトレーニングを膨らませ、本人が目標とする進路へ対応可能なスキルを磨いていく。2年次では、専門領域の研究を通じて洞察力と創造力を養う。それぞれの専門領域から所属する研究室（ゼミ）を選び、卒業研究（作品制作、論文作成）に取り組む。自分自身でしっかり物事を捉え考えられるように、教員と仲間とのコミュニケーションを繰り返しながら研究を深めていく。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.kurashiki-cu.ac.jp/nyusi/index.php/admission_policy/）
（概要） 1. 大学教育を通じてどのような力を発展・向上させるのか (1) ファッション、デザイン・アート、および情報・地域・ビジネスに関する基礎的な理論及び実技の修得を通じて、これら分野を中心とした課題認識のための諸能力、及び多角的視点に立ったその課題解決能力を養う。 (2) 学内外を学びの場としてとらえ、自発的に行動し、筋道を立てて答えを導くことのできる創造力かつ実践力を養う。 2. 入学者に求める能力は何か (1) 修学に必要な基礎能力を有している。 (2) 繊維・アパレル産業を基盤にしたファッション、デザイン・アート、及びビジネス領域の修学に興味があり、意欲的に学ぶ姿勢がある。 3. 入学するまでに培ってきた能力をどのように評価するのか 本学の理念・教育目的と、服飾美術学科の教育目的・教育内容の専門性・特性にふさわしい学生を選抜するために、総合型Ⅰ～Ⅲ期、学校推薦型選抜（市内・市外）、一般A選抜（大学独自試験）、特別選抜（社会人・帰国生、外国人留学生）、一般B選抜（大学入学共通テスト）を実施する。総合型Ⅰ～Ⅲ期では、プレゼンテーション、面接、調査書・活動報告書でそれぞれ総合的に評価する。学校推薦型選抜では、小論文、面接、調査書・活動報告書で総合的に評価する。一般A選抜（大学独自試験）では、国語（漢文を除く）、外国語・数学・芸術（コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ、数学Ⅰ・数学A、美術Ⅰ（静物デッサン）の3科目のうちから1科目選択）、調査書で総合的に評価する。特別選抜（社会人・帰国生、外国人留学生）では、小論文、面接、調査書・活動報告書で総合的に評価する。一般B選抜（大学入学共通テスト利用）では、国語、外国語から1科目、これらから選択しなかった科目を含む5教科から1科目、調査書で総合的に評価する。これらの試験を通して、服飾美術学科の教育目的に則した志願者の能力や適性等を多面的かつ公正に評価する。

学部等名 専攻科保育臨床専攻
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kurashiki-cu.ac.jp/info/index.php/rinen/)
(概要) 短期大学等での幼児教育及び保育に関する学修を基礎とし、一人一人の学生の主体性及び個性を尊重した指導の下、保育者としての資質を高め、保育に関するより高度な専門知識及び技能が確立できるようにする。それらを適切かつ創造的に活用できる保育臨床実践力を発揮し、修了後においても学び続ける意欲を持った保育の専門家を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kurashiki-cu.ac.jp/nyusi/index.php/diploma_policy)
(概要) 2年以上在学し、必修科目及び選択科目併せて62単位以上を修得しなければならない。 全学専攻科ディプロマ・ポリシー 学士の学位は、専攻科に2年以上在学し、学則に定める所定の授業科目を履修して、基準となる単位数を取得して本学専攻科を修了した者が、大学評価学位授与機構の審査に合格することによって授与される。 保育臨床専攻ディプロマ・ポリシー 保育臨床専攻では、大学の教育理念や専攻科の教育目的に基づき、次のような能力を修得し、かつ所定の単位を取得した学生に「学士（教育学）」を授与する。 1. 知識・技能 保育臨床における専門的知識及び実践的スキルを修得し、子どもの最善の利益を考え、質の高い保育を実践する力と地域の子育てを支援する力を身に付けている。 2. 汎用的応用力 保育に関わる職業生活や社会生活において、他者の見解や必要な情報を収集・整理し相互に関連づけながら、自分の考えを適切に表現できる。 3. 創造的思考力 保育臨床における専門的知識及び実践的スキルを総合的に活用しながら、主体的に課題に取り組みこれを解決することができる。 4. 態度・志向性 保育における専門家として、「子どもと子育てにやさしい社会づくり」の責務を理解し、より良い地域社会の実現とその発展においてリーダーシップを発揮することができる。 上記1～4に関する成果は「修了論文報告書」としてまとめられ、且つ、その内容を「学修の成果・探求発表会」にて発表することを通して可視化される。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.kurashiki-cu.ac.jp/info/index.php/gakusoku/及び学生便覧）
(概要) 授業科目は、関連科目と専門科目に区分している。専攻科保育臨床専攻の教育課程の編成・実施方針は、（1）専攻科の専門的基礎を養うための関連科目を設置する。（2）保育・子育て支援に関する高度な専門的知識及び技能を習得するための「教育学・教育心理学」、「教科教育」、「幼児教育・保育」、「特別支援教育」に関する講義・演習科目を設置する。（3）高度な保育の臨床的実践力を養うための実習科目を設置する。（4）保育研究者としての素養を養うための特別研究を設置すると定めている。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kurashiki-cu.ac.jp/nyusi/index.php/admission_policy/)

(概要) 1. 大学教育を通してどのような力を発展・向上させるのか 保育臨床専攻は、「短期大学等での幼児教育及び保育に関する学修を基礎とし、保育者としての資質を向上させ、臨牀的・実践的な知識と技能を持ち、修了後も主体的に学び続ける意欲と能力を備えた保育の専門家を育成する。特に、保育に関する高度な専門的知識及び技能を修得し、保育現場において適切かつ創造的に活用できる保育臨床実践力を高める」ことを目的としている。そのために、次に示す能力の5要素を有する人を求める。 2. 入学者に求める能力は何か (1) 学問としての保育に関する専門的知識・保育実践に係る専門的技能 (2) 保育をめぐる課題への高い関心・課題に取り組む熱意 (3) 自らの課題意識に基づき主体的に研究に取り組む意欲・研究を進めるための基礎的能力 (4) 高いコミュニケーション能力・仲間と共に課題に取り組むことのできる協働性 (5) 自分の将来の目標に対する明確なビジョンを描く力 3. 入学するまでに培ってきた能力をどのように評価するのか 本学の理念・教育目的と、保育臨床専攻の教育目的・教育内容の専門性・特性にふさわしい学生を選抜するために試験を実施する。具体的には、保育に関する専門的知識や課題に対する高い関心、研究を進めるための基礎的能力を中心に評価する小論文、研究に取り組む意欲やコミュニケーション能力、自分の将来の目標に対する明確なビジョンを描く力を中心に評価するため面接試験を実施する。いずれの試験においても、本専攻の教育目的・教育内容に則した志願者の能力や適性等を多面的かつ公正に評価する。
--

学部等名 専攻科服飾美術専攻
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kurashiki-cu.ac.jp/info/index.php/rinen/)
(概要) 短期大学等でのファッション、デザイン・アート及び情報・地域・ビジネス関連分野の学修を基に、さらに専門性を高め、生活に関連する課題を総合的に検討し、解決へと導くことのできる論理的思考を身につける。また、修得した学びを地域社会及び産業に積極的に活かそうとする気概を持った自立した社会人を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kurashiki-cu.ac.jp/nyusi/index.php/diploma_policy)
(概要) 2年以上在学し、必修科目及び選択科目併せて62単位以上を修得しなければならない。 全学専攻科ディプロマ・ポリシー 学士の学位は、専攻科に2年以上在学し、学則に定める所定の授業科目を履修して、基準となる単位数を取得して本学専攻科を修了した者が、大学評価学位授与機構の審査に合格することによって授与される。 保育臨床専攻ディプロマ・ポリシー 服飾美術専攻は2年制の専攻科である。大学評価・学位授与機構に学位申請を行い、審査に合格することで「学士号（家政学）」を得ることができる。 1. 知識・技能 専門的知識・技能を修得し、生活や地域・社会に活用できる能力を身に付けている。 2. 応用・発展能力 自ら課題を発見し、必要な情報を収集・選別して、それらを多角的な視点から論理的に分析し、問題を解決する創造力を身に付けている。 3. 態度・志向性 自立した社会人としての意識と向上心を持ち、地域の生活・社会の発展に積極的

に貢献できる力を有している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.kurashiki-cu.ac.jp/info/index.php/gakusoku/及び学生便覧） （概要） 授業科目は、関連科目と専門科目に区分している。専攻科服飾美術専攻の教育課程の編成・実施方針は、服飾美術専攻は、社会構造の変化に即応し、生活者と生活者、あるいは生活者と地域社会といった「関係性を創造するデザイン力」を重要な柱とした教育を行っている。地域社会に貢献できる人材育成の実現をめざしたカリキュラムを構成している。2年間の学修のまとめとして特別研究（学士論文と作品）に取り組み、その成果を他者にわかりやすく伝えることができるように指導する。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.kurashiki-cu.ac.jp/nyusi/index.php/admission_policy/） （概要） 1. 大学教育を通してどのような力を発展・向上させるのか (1) 短期大学等でのファッション、デザイン・アート、及び情報・地域・ビジネスの学修を基に、地元地域に根差した研究その他の活動を通じて得ることのできる専門能力と、学士に相応しい十分な教養を深める。 (2) 学修により得た学びを地域社会及び産業に積極的に活かそうとする気概を持った地元貢献に資する応用・適用能力を養う。 2. 入学者に求める能力は何か 次の各能力を有していること (1) 分野に対する基礎的知識・技能 (2) 修学に対する関心と熱意・主体性 (3) 地域社会への興味と理解 (4) コミュニケーション能力 3. 入学するまでに培ってきた能力をどのように評価するのか 本学の理念・教育目的と、服飾美術専攻の教育目的・教育内容の専門性・特性にふさわしい学生を選抜する。具体的には、志望分野で学ぶ上で必要となる知識・思考力等を測るための論文試験、および志望分野における強い研究意欲・主体性を測るための面接、プレゼンテーションを通じて、本専攻の教育目的・教育内容に則した志願者の能力や適性等を多面的かつ公正に評価する。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： https://www.kurashiki-cu.ac.jp/info/index.php/history/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1 人	－					1 人
保育学科	－	4 人	6 人	2 人	人	人	12 人
服飾美術学科	－	5 人	2 人	2 人	1 人	人	10 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		64 人					64 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法 https://www.kurashiki-cu.ac.jp/info/index.php/kyoingyouseki/					
c. F D （ファカルティ・ディベロップメント） の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
保育学科	50 人	46 人	92.0%	100 人	95 人	95.0%	0 人	0 人
服飾美術学科	50 人	36 人	72.0%	100 人	85 人	85.0%	0 人	0 人
専攻科保育臨 床専攻	10 人	14 人	140.0%	20 人	28 人	140.0%	0 人	0 人
専攻科服飾美 術専攻	10 人	12 人	120.0%	20 人	25 人	125.0%	0 人	0 人
合計	120 人	108 人	90.0%	240 人	233 人	97.1%	人	人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
保育学科	60 人 (100%)	16 人 (26.7%)	43 人 (71.7%)	1 人 (1.6%)
服飾美術学科	21 人 (100%)	15 人 (71.4%)	4 人 (19.1%)	2 人 (9.5%)
専攻科保育臨 床専攻	8 人 (100%)	0 人 (0%)	8 人 (100%)	0 人 (0%)
専攻科服飾美 術専攻	11 人 (100%)	1 人 (9.1%)	10 人 (90.9%)	0 人 (0%)
合計	100 人 (100%)	32 人 (32%)	65 人 (65.7%)	3 人 (3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

本科では基礎科目と専門科目、専攻科では関連科目と専門科目によって授業科目を構成している。授業は、学習内容に合わせて、講義、演習、実験、実習、見学など複数の教授方法を用いて行っている。

授業計画書（シラバス）には、授業の主題・到達目標、授業の内容・進め方、実務経験を活かす内容、テキスト・教材、準備学習の具体的な方法、評価の方法・基準、履修上の注意などの項目を統一して設け、各授業担当教員は、全ての項目に記載している（実務経験を活かす内容については該当する教員のみ）。

各科目担当教員は、授業計画書（シラバス）を作成する際、前年度の内容を確認するとともに、授業評価における課題を反映し、新年度の授業計画書（シラバス）として作成している。授業計画書（シラバス）は、11月末に学生部より各科目担当教員に作成の依頼がされる。授業計画書（シラバス）は、冊子として3月下旬に完成する。

授業計画書（シラバス）は、年度当初のオリエンテーションにおいて全学生に冊子として配付され、学生は授業計画書（シラバス）を確認した上で授業を選択することができる。外部への情報公開として、大学ホームページに掲載されている。

教員は初回授業にて、シラバスに基づいて履修生に授業計画書（シラバス）を説明している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 成績評価方法や評価基準は「倉敷市立短期大学学則」に定めており、厳格に運用している。この学則は、学生便覧に記載され、学生に明示している。成績評価の方法は、試験成績・レポート・作品・論文・プレゼンテーションにより総合的に評価する。また、授業計画書（シラバス）にも、科目ごとに評価の方法・基準の項目を設け、具体的な成績評価を明示している。成績の分類と評価基準は、履修した科目の 60 点以上を合格点として、その科目の単位を与える。また、評価と得点は次のとおりである。 令和 3 年度以前入学生まで適用：A（100 点～80 点）、B（79 点～70 点）、C（69 点～60 点）、D（59 点以下）。 令和 4 年度入学生より適用：S（100 点～90 点）、A（89 点～80 点）、B（79 点～70 点）、C（69 点～60 点）、D（59 点以下）。 学生全員分の G P A が算出され、学科ごとに、上位から下位までを表で確認することができる。G P A の算出は、前期は 9 月、後期は 2 月に行われている。 各学科および専攻科において、2 年以上在学し、所定の単位数を修得した学生に卒業を認定する。保育学科については 75 単位以上、服飾美術学科、専攻科保育臨床専攻、専攻科服飾美術専攻については、62 単位以上を修得しなければならない。卒業及び修了を認定された学生は、「倉敷市立短期大学学則」、「倉敷市立短期大学学位規程」に基づき、短期大学士の学位を授与する。専攻科保育臨床専攻においては、大学改革支援・学位授与機構「学位規則第 6 条第 1 項の規定に基づく学士の学位の授与に係る特例に関する規則」に準じて学士（教育学）を授与する。専攻科服飾美術専攻においては、大学改革支援・学位授与機構「学位規則第 6 条第 1 項の規定に基づく学士の学位の授与に関する規則」に準じて学士（服飾美術学）を授与する。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	保育学科	75 単位	有・無	単位
	服飾美術学科	62 単位	有・無	単位
	専攻科 保育臨床専攻	62 単位	有・無	単位
	専攻科 服飾美術専攻	62 単位	有・無	単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.kurashiki-cu.ac.jp/info/index.php/nenpou/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	保育学科	390,000 円	市内 112,800 円 市外 169,200 円	134,930 円	
	服飾美術学科	390,000 円	市内 112,800 円 市外 169,200 円	95,430 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 修学支援の組織体制は、教員の組織である教務委員会や学生生活委員会と学生部が責任主体となり、課題に応じて連携しながら行っている。各学科及び専攻科では、前・後期の開始時に学科別オリエンテーションが実施されている。入学時に学生部によって「連絡・通学届」や履修手続き（履修登録シートの記入方法、履修登録の手順等）についての説明を行う。さらに、学生部教職員、学科長及び担任によって学生便覧・シラバスを用いた教育目的、教育計画の説明を行っている。在学生に対しても学生便覧や配付資料を用いた授業計画書（シラバス）・履修内容の説明を行っている。全学生の履修・休学や学業の遅れなどの状況について、教務委員会を中心に学生の情報を短期間に収集し把握に努めている。ケースによっては家庭と連携し、科目担当者や担任らと連絡を取り合い修学や生活などを必要に応じて早期から対応している。保育学科では、随時教員が、学生との面談を心掛け、在学生に対してきめ細かい指導を行っている。服飾美術学科では、教員が修学における質問や相談を受ける「オフィスアワー」を実施している。各学科・専攻科すべての授業で、学生に「授業評価アンケート」を行い、学生の意見に耳を傾け、改善すべき点は見直す体制を整えている。障がいのある学生の支援に関しては、修学に支障が生じないように合理的配慮を行っている。全ての学生が、充実した大学生活が送れるようにケースに応じた支援の方法を大学と対象学生との合意形成の下に検討している。したがって、相談も随時受け付ける体制を整えるように準備している。障がいのある学生への対応については、障がい者用のトイレやエレベーターを設置している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 学生の進路支援は、学生部およびキャリア支援委員会が中心となり、全教員、中でも学科長やクラス担任、ゼミ担当と連携して就職や進学等の進路選択に関して組織的に支援している。大学に届いた求人票は、学生部やキャリア支援室から学科長や担任教員のところでも確認することができる。また、全教員で卒業生の就職先への卒後訪問を行って職場への適応状態など動向の把握につとめ、在学生への就職支援に活かすようにしている。キャリア支援としては、ハローワークジョブサポーターによる出張就職相談会をはじめ、エントリーシートの書き方、面接マナー、電話のかけ方、スーツの着こなし方、メイクアップなど年間を通じて多くの就活セミナーを実施しており、学生は誰でも何回でも参加できる。1年次には「キャリアデザイン」という授業が開講されており、自己分析や職業研究をはじめ、就職活動の仕方なども授業として受講することができる。また、令和6年度からは、地元児島地区の企業を大学に招き、学生向けの「くらたん合同企業説明会」を開催している。 保育学科では、就職した卒業生を招いてホームカミング就職懇話会を行い、先輩の話を聞くことができる機会があったり、公務員対策講座や保育士・幼稚園教諭模擬試験等も実施したりしている。2011年度より、保育士の確保・就職支援のために倉敷市と共催して倉敷市民間保育所ガイダンスを開催している。また、毎年行われている岡山県私立幼稚園連盟の説明会にも、学生の参加を精力的に促している。 服飾美術学科では、地元のアパレル企業の協力をうけ、企業でインターンシップを行いながら単位認定を受けることができる「アパレル企業実習」を開講している。また就職試験に用いられるSPIの模擬試験なども実施している。その他、履歴書の添削や面接指導、個別相談なども随時行っている。これらの活動を通じて、学生本人が、自分で自分の進路を選択できるよう、大学内で組織間の有機的連携を図り、支援を行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
学生生活支援では、学生部及び学生生活委員会が中心となり心身の健康保持・増進及び安全・衛生への配慮とその適切性保持を目標に、生活全体の維持、改善について組織的に実施している。 生活支援状況の検証、および改善については隔年ごとに学生生活の満足度調査を行い、現状把握、改善に取り組んでいる。

学生の個別相談に応じるための体制整備として、養護教諭を決まった時間常在させ、学生らの心身の健康問題について対応している。養護教諭はキャンパスヘルスに関する研修会などに参加し、学生特有の問題に対応できるように相談能力の向上に努めている。健康管理面でも、養護教諭が中心となって学校医と密に連携しながら、感染症の流行動向や予防接種といった集団の健康管理も積極的に行っている。

学生の状況把握や個別相談に応じるための体制整備として、1年次は、担任やチューター、2年次は、担任やゼミ担当教員などが中心になり相談を受け付けている。また、新型コロナウイルス感染症感染対策については、危機管理委員会が、学生の健康維持、感染拡大防止の対策を検討してきた。障がい学生支援については、障がい学生支援委員会が学生会部や企画運営協議会などと連携を図っている。

安全面においては、学生に防犯に関する情報を提供するため安全マップを作成しアップデートな情報を入手、注意喚起を促すように努めている。

ハラスメント防止策を含めた人権保護のための措置とその適切性については、人権・ハラスメント委員会を設け、「人権・ハラスメント委員会規程」および「ハラスメント防止等に関する規程」に基づき、学内の生活安全に努めている。この中で、学生の個別相談に迅速に応じるための体制整備として、各学科および学生会部にハラスメント相談員及び学生会部教職員による相談窓口を配置している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.kurashiki-cu.ac.jp/info/index.php/nenpou/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F233210109680
学校名（〇〇大学 等）	倉敷市立短期大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	倉敷市

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		84人（ 58 ）人	77人（ 52 ）人	87人（ 58 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	16人	17人	
	（うち多子世帯）	－	－	
	第Ⅱ区分	12人	13人	
	（うち多子世帯）	－	－	
	第Ⅲ区分	－	－	
	（うち多子世帯）	－	－	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	15人	11人	
	区分外（多子世帯）	33人	34人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0 ）人
合計（年間）				87人（ 58 ）人
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	人	1人	1人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	人	3人	1人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	3人	3人
計	人	6人	4人
(備考) 保育学科の学生でGPA等が下位4分の1に該当する者が前半期に7人、後半期に8人いたが、日本学生支援機構が定める「斟酌すべきやむを得ない事情がある場合の特例措置」の内、「教育課程の特性（特例2）」により、総合判定で継続の判断となったため、上記人数には計上せず。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。